

今回は、HUG（H：避難所 U：運営 G：ゲーム）を実施しました。これは災害発生時に学校へ避難したと仮定して、体育館・運動場のレイアウトを様々な事情がある家庭、特に授乳中の人や要介護者を抱えた家族・ペット連れの家族・外国人旅行者たちの「避難者」をどのように配置していくか。次から次に起こること（トイレの問題発生・食料が届いた・車での避難者が来たなど）へどう対応するかの判断をせまられるゲームです。

終了しても「あれでよかったのだろうか」と考えさせられる内容もありました。人生は毎日が本番！皆さんも一度は経験しておいた方が参考になるのではと感じました。 愛宕校区 角 敏秀



新校区の紹介～西都校区～

2017年4月、新しい小学校と共に新しい自治協議会が発足し、男女共同参画部会の委員9名がよちよち歩きでスタートしました。

ほとんどの委員が男女共のことを知らずに参加していたので、学習会から始まり、周船寺校区の先輩からのアドバイスを受け、まずは男女共を校区の皆さんに知ってもらおうと11月に旧伊藤伝右衛門邸へ出かけました。徳永地区、女原地区、新しい西都地区から参加され、まずは小さな一歩ですが踏み出しました。

1月27日には、西都校区発足記念とし、さいとぴあホールにて講談師 神田紅さんの講演会を行いました。自治協と協力してチラシや会場作り、チケット販売などを行い、大盛況にて終了しました。

生まれたばかりの西都です。男女、年齢問わず、みんなで協力して住みやすくあたたかい町にしていきたいと思います。

西都校区 宮川 蓉子



西区男女共同参画をすすめる会に参加して

男女共同参画とは何であるかもわからないまま携わり、いまに至っています。性別にとらわれず、社会的な支援やサービスを利用しながら、子育てや地域活動に参加することができる環境を作り、一人ひとりが安心して暮らせる様になることではないかと思ひ、参加してきました。

意識の上ではわかっている、地域リーダーへ積極的な参加はまだまだ心が伴っていません。少しでも個々の能力を発揮できるように世代をこえて支え合い、助け合って活動ができればと願っています。

姪浜校区 吉村 初子



編集後記

私は、昨年バスに乗った際に2度も席を譲られました。まだまだ譲る側と思っていた私は大変ショックを受け、もうバスには乗りたくないとも思いました(笑)

バスや地下鉄の車両も色々配慮はされていますが、超高齢化社会を前に、譲る側と譲られる側のもう少し分かりやすいシステムはないのでしょうか。

壱岐南校区 王丸 由美子(50代)

なぎさ



あなたと輪を広げたい

参画は 家庭から地域へ そして社会へ

(平成28・29年度 西区男女共同参画をすすめる会 年間テーマ)

編集 西区男女共同参画をすすめる会 発行 福岡市西区地域活動推進会 (〒819-8501 福岡市西区内浜1丁目4-1)

平成29年度 西区男女共同参画をすすめる会の活動について

テーマ「防災」を掲げた今年度。なぜ男女共同参画で「防災」なのか?そう感じた方もいらっしゃるでしょう。近年、身近に起こる災害の多さに驚かされます。被災したらどうなるのか、避難訓練が現実に対応しているのか、避難所にたどり着いたあとの生活など不安は増すばかりです。避難場所や経路は決まっていますが、その後続く避難生活は、みんなで考えていかなければいけません。なぜなら、避難所では性別をはじめ個々の事情によりニーズが異なるため、多様な対応が必要だからです。これは、男女共同参画の視点が地域で活かされる分かりやすい事例だと思います。

その思いから、今年度のフェスティバルでは熊本地震の際に避難所自主運営を実践された吉村静代さんに講演をお願いしました。講演で心に響いた一つに、平常時は当たり前で出来ていたことが、避難者になったとたんお客様状態になってしまい、避難所を出た時に自立することが難しくなってしまうという話です。これは、非常時であっても、自分の人生を生きる為に心に刻むことだと再確認しました。

西区男女共同参画をすすめる会 会長 井 規子



西区男女共同参画推進奨励賞表彰式

地域で男女共同参画を実践・推進し、地域の男女共同参画社会の形成に貢献している個人や団体に対し、毎年、西区が表彰を行っています。今年は3人の方が受賞されましたので紹介します。

受賞者一覧 (敬称略、写真左から)

荒金直美 (元岡校区)、栄カヨ子 (壱岐東校区)、萩原香代子 (内浜校区)



西区男女共同参画フェスティバル2017

日程:12月2日(土) 会場:さいとびあ

朗読劇

できるかな?避難所暮らし

今年は「防災」をテーマに活動されているということで、避難所運営についてみんなで安心して生活するにはどうすればいいかを考える内容でした。食事やトイレ、その他それぞれの課題について意見が交わされていました。防災について、日頃から意識を持つことは大切だと思うと同時に、すすめる会の思いがもっと参加者に伝わっていけばいいなと思いました。

吉岐東校区 公民館長 田嶋 悦子



アンケート

- ・地震など災害は、いつ起こるかわからないので、身近な課題として多くの方が「自分の事」として関わっていくことの大切さを感じた。
- ・皆で考えなければということもよく理解できた。何から始めればよいか具体的なアドバイスがあれば、考えがさらに発展するかなあと考えた。
- ・もっと障がい者(身体、精神)の立場に立った意見もほしかった。

講演会

主役はわたしたち ～避難所からのコミュニティ形成～

講師:熊本県益城町テクノ仮設団地 自治会長 吉村 静代さん

2016年4月の熊本地震で被災後、益城町中央小学校体育館では、避難者が約200名、我先にと場所を陣取り、勝手気ままに振る舞って混乱していました。そこで吉村さんは、リーダーシップを発揮して、区画割りや通路の確保、見知らぬ者同士のための喫茶コーナー・キッズスペースを設置しました。また、「できる人が できることを できたしこ」を合言葉に、協力し合う雰囲気作りを心掛け、避難所の運営をみんなで行いました。「地震や津波は天災だが、その後、人々が直面した厳しい現状は人災」と言われますが、この避難所は、十分乗り越えた運営だったと思います。

会場からの「それは、吉村さんだから出来たのでは?」という質問に対し、「だれにでもできます」というお答えでした。しかし、吉村さんの存在は大きかったのではないのでしょうか。だからこそ、いま私たちに出来ることは『経験と知識を積み重ねておくこと、被災地で起こったことを参考にして、アンテナを張ること』だと思います。

愛宕校区 角 敏秀

アンケート

- ・実生活のことも忘れないように仮設生活も考えなければと思った。仮設のお客様にならない様に心がけたい。
- ・体験、体感をされた方なので分かりやすい。指導する人が上手にまわりを取り込んで協力できるようになることで、自発的にみんなが行動するようになることがわかった。
- ・やはり男性・女性両方の力の大切さが本当に良くわかった。

第2回 西区自治協議会と 西区男女共同参画をすすめる会の 意見交換会

- 日 程:平成30年1月17日(水)
- 場 所:西区役所 大会議室AB
- 参加者:41名(自治協 18名・男女協 23名)

進行役 佐藤倫子さん(福岡市共創による地域づくりアドバイザー)

- 実施内容
- 1.前回の振り返り(2校区)
「他団体と連携し、校区地域性を活かした活動を行っていく」という校区の思いを発表
 - 2.福重校区 事例発表「他団体と連携して取り組んだ避難所体験」
 - 3.意見交換会(6班)

意見交換で出た主な内容

- 10年後の校区の将来像
 - ・理想像としては男女共について学習しなくても自然と理解が深まり、男女共同参画という冠が必要なくなる。
 - 「将来像」に近づくために校区男女協の果たす役割、活動の目的は?
 - ・地域全体の中で男女共の考えをもった活動を行う。
 - ・男女が共に「男だから、女だから」の意識を変え、みんなで参画する。
 - ・男女共について学び実践し、家庭でも声に出して伝える。
 - 校区の意思決定機関にもっと女性が参画するためにはどうすればいいか
 - ・リーダーシップをとれる女性を育てる。
 - ・発言しやすい雰囲気づくりと女性の意識改革。
 - ・家庭の理解が必要。
 - その他
 - ・コミュニケーションを図りながら会長ひとりではなく、みんなで意見を出し合っ活動(参画)することが大切。
 - ・地域性を活かした活動を行う。
- 今回はさらに有意義な意見交換会になったと思います。



北崎校区 岩橋 明美

※男女共…「男女共同参画」の略 ※男女協…「男女共同参画協議会等の団体」の略

2017年10月13日~14日

日本女性会議2017とまごまい

北の大地で語ろう これからの未来の一步を

私は第9分科会「教育」で「今、個性を認め、未来を育む教育とは何か?」のテーマに参加しました。パネリストからは、学校や家庭、社会における平等意識の欠如が原因で、差別や偏見、いじめ等がなくなっていないという現状の報告がありました。一人ひとりの個性として捉え、多様性が認められ尊重される社会の実現を目指していこうと総括されました。

この分科会を通して、自分に出来ることは何かを探し、問うことから始め、皆で考え合う→知る→学ぶ→拡げるへと男女が共に助け合い支え合う地域づくりにつなげていきたいと思ひます。 内浜校区 荻原 香代子